

アニマルあいづ

2010

冬

Vol.11-4



いしかわ動物園

目次

表紙のことば

動物園百景

デカのいた風景 編集部

特集

1. ありがとうデカ 坂牧朝仁

2. デカのあしあと 坂牧朝仁

グラフ

デカの思い出アルバムから

動物園秋のアルバムから

シリーズ「動物園の住人たち」

ホクリクサンショウウオ 田中館憲橘

シリーズ「動物園うらのうら」

レッサーパンダの妊娠騒動 小倉康武

オオカンガルーの人工哺育 大井 毅

スクラップブック

2010年9月～2010年11月

お知らせ、編集後記

1

2

4

6

8

10

11

11

12

13



表紙のことば

ウサギ

今回の表紙は干支にちなんでウサギです。と去年も同じようなことを書いたような気がします。まあ動物園ではありがちな流れでしょう。

さてこれは、いい天気の日には白と灰色のウサギを台に乗せ、空をバックに撮りました。いわゆる「やらせ」ですが、ウサギだし、一目でそれと分かるのでそんなに嫌味はないだろうと思い、やってみました。最初はウサギ専門誌のようなかわいらしい画を撮るつもりだったのですが、出来上がってみると、かわいいというより、キリッとしたちょっと違ったものになりました。でも青空が気持ちよく新年らしいので、これはこれでいいんじゃないかと思います。

(文、写真 田島一仁)

デカのいた風景



2006年4月1日 54歳 カバの長寿記録を更新したデカ

カバを見に来てたんじゃない、デカに会いに来てたんだよ

1962年（昭和37年）の3月、当時10歳だったデカは石川県にやって来た。未だ本物のカバが珍しい時代、デカはたちまち人気者になる。以来48年間、石川県ではカバといえばデカ、デカはカバの代名詞になった。

1999年（平成11年）10月、新しいしかわ動物園がオープンした。一躍脚光を浴びた動物園で、デカは長寿カバの「デカばあちゃん」として再び人気者になる。

「このカバね、ママが子どもの時からあるのよ。むかし、おじいちゃんとおばあちゃんと見に来たわあ。」と

話すママと子どもたち。「じいちゃん見まっしま。昔、初男と秀夫の手を引いて、このカバ見たがいね。」と懐かしむ、ばあちゃんとじいちゃん。1頭のカバからよみがえる思い出がある。デカだから、懐かしい話に花が咲いた。

だから、みんなはカバを見に来てたんじゃない、デカに会いに来てたんだよ。

（編集部）

特集1

ありがとうデカ



毎年敬老の日に開かれていた長寿を祝う会、おからケーキは好物だった

動物園には、いつもひととき穏やかでのんびりとした時間が流れる空間がありました。その場所の主は、カバの「デカ」です。物事に動じず、温和な性格、マイペースで老いを見せない食欲と、大きな体を悠々と水に浮かべるその姿は、まさしくいしかわ動物園の主でした。

今年も敬老の日のお祝いをいろいろと考え始めていた8月5日の夕方、突然の「さようなら」が訪れました。その最後の日まで、堂々とした58年間のあゆみでした。デカを知るすべての人に愛され、動物園に訪れた人たちの思い出の1ページとして、デカは深く大きく刻まれてきたと思います。その思い出は3世代4世代に渡り、いつしか「デカばあちゃん」と呼ばれ親しまれてきました。毎年敬老の日にはたくさんのファンからお祝いのメッセージを、子どもたちからは歌や踊りのプレゼントを頂き、

私たち飼育係は特製の3段おからケーキを作りお祝いしていました。

私にとってのデカ

私にとってデカは、大切な家族であり、飼育係としての「いろは」を教えてくれた先生でもありました。

私とデカとの時間は、デカの58年間の中では17年間と

短いものですが、私にとってはたくさんのお思い出を残してくれた、かけがえのない時間でした。何も知らない17年前の新人時代、デカの食事中に私は「もっとデカを知りたい」、「もっとデカに近づきたい」の一心で、デカの口元へ。その瞬間大きな顔が私のほうを向き、大きな^{きは}歯が私の左横腹をかすめました。その時デカは、教えてくれたのです。人間と動物のルールや信頼関係の大切さを。それ以来、私はデカの生活リズムや、今デカ

に何が必要なのか、何を望んでいるのかを常に考え行動するように心がけたところ、いつからか口の中に手を入れ掃除をさせてくれるまでになりました。今では、左横腹の傷も大切な思い出の一つとなりました。

デカとの毎日

私とデカの17年間は、毎朝の「デカ、おはよう」のあいさつに始まりました。デカはきまってゆっくりと水の中から顔を出し、「ブシュー」と大きな鼻から霧のように水しぶきを上げ、返事をしてくれました。デカの体調の良い日は、私の手の届く位置までプールのスロープをゆっくり上り、私がデカの鼻先をトントンと叩くと、大きな口を奥歯が見えるほどいっばい^{たた}に開けて見せてくれました。私がデカの口の中の健康チェックや掃除をしていると、時にはゆっくりと口が閉まっくることがありまし



ゆったりとプールに浮かぶデカ



デカの口の中での掃除をする

た。「まだだよ」と声をかけると、再び大きな口を開けてくれ、決して口を閉めることのない優しいデカでした。

マイペースなデカ

そして、老いてもなお衰えることのなかった食欲は、一日2回の食事の時間になると、デカの正確な腹時計が反応し、時には時間前にプールから出てきて待っているほどでした。そのためか、大きなお腹は地面ぎりぎりのウエスト3.7メートル、体重は推定2.5トン、ちょっと太りすぎの体型に…。

しかし、そうかと思うと食事の準備をしても「ごはんだよ」と声をかけてもなかなかプールから出てこない時もありました。でも大丈夫、いつの間にかプールから上がりゆっくりと時間をかけ、好物の青草やおから約30キ口の食事が始まっています。そうです、食事にもデカのペースがあるのです。

餌^{えき}を与える時間は決まっていますが、デカにとっては食べたい時が食事の時間なのです。

最初の頃は、このマイペースぶりに「食欲がないのか?」「病気なのか?」などなど心配しましたが、飼育係のペースではなく、デカのペースに合わせることの大切さを学びました。そんな毎日が、デカ先生の授業であり、家族のような信頼関係を深めるための日々となりました。また、デカを通して、デカの魅力に魅^{みりよう}了されたたくさんの人たちと出会うことができ、お世話になりました。

デカへのメッセージ

デカがこの世を去った8月5日以降、たくさんの方々から多くの花



たくさんの方から追悼の花束が届いた



カバ舎に集まったメッセージカードは1ヶ月で2000枚を超えた



デカのまわりには、いつもゆったり、のんびりした時間が流れていた

や手作りの品をお供えしていただき、メッセージカードも約1ヶ月間に2000枚を超え、観覧通路はいっぱいになりました。メッセージの内容のほとんどは悲しみの言葉よりも「たくさんの思い出をありがとう」といった感謝の言葉であふれていました。それらメッセージを見るたびに、デカはたくさんの方々に幸せと思い出を届けていたのだと感じます。

デカありがとう

1953年(昭和28年)に日本に来て以来^{いくた}幾多の環境変化を乗り越え、これほどまでに波乱^{はらんぼんじょう}万丈な一生を送ったカバは他にいないと思います。私は飼育係としてデカの力強い命の側にいさせてもらったことで、動物本来の生命力を実感することができました。いつか、天国のデカから飼育係として合格点をもらえるよう、まだまだ努力しなければと考えます。

最後に、デカ、本当にたくさんの幸せをありがとう。

特集2

デカのあしあと

8月5日に突然死んでしまったデカ。その数奇な人生、これまでたどってきた道を年ごとにふり返ってみたいと思います。

1952年（推定）

アフリカ大陸で誕生（ドイツの動物園生まれという説もあります）

1953年

カバヤ食品（岡山市）がカバを2頭購入しました。そのうちの1頭が1歳（推定）のデカでした。水そう付きトラックに乗り、カバヤキャラメルの宣伝隊のキャンペーンガールとして、東海、西日本地区をめぐりました。当時の名前は「カバ子」。当時お世話した方の話では、カバはまだ珍しく大変人気があったそうで、子どもたち^{かさ}に傘などでつつかれても、カバ子は怒りもしない温かな性格だったそうです。冬のキャンペーンで温泉地を訪れた時には、温泉のお湯を水そうに入れ温めてあげたそうです。



カバヤ食品でキャンペーンガールだった時代

1955年

成長したカバ子はトラックでの移動が困難となったため、池田動物園（岡山市）に預けられました。この時、一緒に日本へやって来たオスカバをプールに突き倒すなど、いしかわ動物園時代のデカからは想像できないくらいやんちゃぶりだった様子です。

1956年

北九州市の^{いとろづ}到津遊園、（現在の到津の森公園）へ移動しました。

1962年3月

金沢動物園（金沢ヘルスセンター）に移動し、名前が「カバ子」から「デカ」になりました。48年間に及ぶ石川県での生活が始まりました。

1963年11月

王子動物園（神戸市）から10歳年下のオスの「ゴンタ」（1歳）が花婿としてやってきました。2頭は仲が良く、デカは年下の^{だんな}旦那さんゴンタをたて、食事の時は必ずゴンタを先にし、デカは後から食事



旦那さんのゴンタといっしょに



15番目の子どもといっしょに

を始めたそうです。

1972年7月

結婚9年目にデカとゴンタの間に待望の第1子が誕生しました。第1子出産以降、14年間に15頭の子どもに恵まれましたが、プールと陸地が1つずつの、産室のない小さなカバ舎では、大きな体の親カバ2頭と小さな子カバでは狭すぎ、デカは精一杯の愛情を注ぐ（子育てをする）ことができず、子どもたちは皆、長く生きられなかったのです。

当時の飼育係達は、人工哺育などに何度かチャレンジし、その小さな命のために努力しました。

1986年7月

23年間連れそったゴンタが24歳の^{しょうがい}生涯を閉じました。

1986年8月

ゴンタとの別れの翌月、忘れ形見第15子（オス）が誕生しました。デカは優しい眼差しで、大切に精



のんびりとくつろぐデカ

一杯の愛情を子カバに注ぎ子育てをしました。しかし...

1989年5月

第15子が3年間という短い生涯を閉じました。デカの一頭暮らしが始まります。

1999年4月

新しいしかわ動物園（能美市）への引っ越し準備が始まり、37年間暮らししたカバ舎を改修しました。移



新動物園への引越し訓練が始まる

動用のオリを設置し、引っ越しの練習がスタート。物事に動じないデカもさすがにこの時は少しビビリ気味でした。一日半プールに戻らず、やっとプールに戻った時にはホッと胸をなでお

ろしたことを覚えています。

1999年5月

新しいしかわ動物園への引っ越しが行われました。当日は、飼育係の緊張がデカに伝わらないように慎重に作業は進められ、デカは練習どおりに無事にオリへ収容できました。金沢市から辰口町（現能美市）まで、37年ぶりのトラック移動は、約2時間の道のりをケガ一つなく、無事に成功しました。この日、さすがのデカも疲れて食事を取らないと思っていましたが、キャンペーンガール時代の経験からか、準備した餌をペロリと完食。やっぱりデカはすごいと感じました。

2001年4月

東山動物園（名古屋市）の「重吉」（53歳）が死亡したため、デカは49歳で長寿日本のカバとなりました。

2006年3月

デカ54歳、カバの長寿日本記録を更新しました。

2006年9月

日本動物愛護協会より功労動物表彰を受賞しました。

2007年1月

ニューヨークヤンキースの松井秀喜選手から、長寿日本一への応援メッセージが届きました。

2009年1月

松井秀喜選手が来園し、デカと対面しました。

2010年8月5日

長寿日本一、世界では第2位（フランスカバ協会調べ）の記録と共にたくさんの思い出を残し、58歳の生涯を閉じました。ありがとうデカ、おつかれさまデカ。



新しいしかわ動物園のカバ舎にて

GRAPH — グラフ

デカの思い出アルバムから

1953年（昭和28年）頃、デカが乗ってキャンペーンに回っていた水そう付きトラック。隣にはカバカーも見えます。（カバヤ食品資料より）



大きな口を開けるデカ。野生では威嚇の時に開けるようですが、デカは食べ物をねだる時によく開けていました。もちろんあくびではありません。



デカの食事風景。牧草におから、ふすま（麦の皮）、リンゴ、ニンジン、キャベツなど1日2回、合計30キロほどを食べていました。



「夏はやっぱりスイカでしょう」とファンからスイカの差し入れも。デカには何人ものファンがいて、こうしたうれしい差し入れもありました。

地元能美市出身のメジャーリーガー、松井秀喜選手からの応援メッセージ。背番号55にちなんで、デカ55歳のお正月にメッセージをいただきました。



2009年1月、松井秀喜選手が動物園を訪問、デカと対面しました。小学生の時にデカを見たことがあるという松井選手、久々の対面となりました。

2010年9月のデカのお別れ会では、能美市立すみれ保育園のみんなが大きな絵を持ってきてくれました。「ありがとうデカばあちゃん」



GRAPH — グラフ

動物園秋のアルバムから



10月の連休に催された秋のふれあいまつり。着ぐるみ隊も大活躍、でもお天気がよくてちょっと暑かったかな。



今年の動物園フォトコンテストの最優秀賞は、高出達也さんの「一服中」。草をくわえたチンパンジーの表情がなんともいえませんね。

アライグマのお食事ガイドの一コマ。昼間は寝ぼけまなこのアライグマも、この時ばかりは活発になります。棒の先に着いた食べ物をもらおうとやっきでした。





11月8日、上野動物園からスパールバルライチョウのオス2羽が到着しました。2011年春に完成するライチョウ飼育舎に展示される予定で、今後メスも導入の予定です。

11月22日、キリンのジェブとイザベルの夫婦にオスの赤ちゃんが誕生しました。夫婦にとっては4頭めの赤ちゃんで、オスとしては2頭めでした。



11月26日、園内で動物脱出防止訓練が行なわれました。ライオンが逃げ出したという想定で、入園者の避難誘導、動物の捕獲について訓練が行なわれました。



11月26日午後、脱出防止訓練の後は消防訓練。売店から出火したとの想定で動物園消防隊が出動、駆けつけた消防車とともに放水訓練を行ないました。

シリーズ 動物園の住人たち

ホクリクサンショウウオ

飼育展示課 田中館 憲橘

サンショウウオの名前は、体のイボがサンショウの木に似ている、そのイボに触れるとサンショウに似た匂いの白い汁を皮線から出すため、この名が付いたと言われています。日本に生息するサンショウウオは、3科6属22種、石川県では、3科4属7種が確認されています。

ホクリクサンショウウオは1971年、羽咋市越路野小学校で、校長先生だった竹田俊雄さんが最初に発見しました。現在能登半島と富山県の一部にのみ生息し、国や県の絶滅危惧種に指定されています。全長8～12センチで、オスはメスに比べて尾が長く大きいです。2月～3月上旬の繁殖期にオスは、産卵場所の水中で約2週間メスが現れるのを待ち続け、メスが水中の枝や小石などに、卵のう（卵が入っている袋、透明のひも状）を1対産み出すとオスがそれを抱いて放精します。産卵場所は、丘陵

地、休耕田内の湧水の水たまりや雑木林に接した水田の溝です。1卵のうの卵数は、30～70個です。産卵後約1ヶ月後エラ付でふ化し、1ヶ月半で全長約60ミリ前後となり、えらが退化し、陸上生活に入ります。約3年で成体になり、寿命は、約20年です。

いしかわ動物園の「郷土の水辺」の展示水そうは、100×60×70センチと小さいですが、野外の生息場所に近い状態の環境になるように陸、水場があります。このような人工の環境でも、2001年から毎年産卵が確認され、2010年1月21日から計7回の産卵がありました。一部の卵が順調に成育し、現在では、親と同じように陸上生活を行っています。写真の卵のうは、2010年産です。展示水そうは、魚の水そうと違い、少しの掃除のみにとどめています。なぜかという、環境の変化を非常に嫌う大変デリケートな動物なため、ひんぱんに掃除を行うことで、次の年の

産卵に悪影響を与えてしまうのです。水そう内のコケやシダも、ほとんど手を加えず、そのままの状態にしています。ただし、水温、気温の変化をつけることは大事で、冬期には雪を水そう内に



ホクリクサンショウウオの卵のう

時々入れて、季節感出すように努力しています。自然に近い状態なので、サンショウウオも安心して産卵行動ができるのです。

水中生活中の餌はイトミミズで、陸上生活になると1ミリ～1センチ程のコオロギの幼生を、1週間に2回約30匹与えています。水そう内で産まれた卵のうは、野外のものより小さく、大変壊れやすいです。これは、単一の餌と水そうの大きさが関係しているようですが、卵の発育には問題ありません。来年も、水そう内というミニチュアの自然でたくさん産卵してくれることを、期待しています。

最近の河川や用水路の工事は、動物にも十分配慮して行なわれるといいますが、手を加えたことで、元々その場所にしか住んでいなかった動物を絶滅に追いやることがあるのです。いかにありのままの自然を守っていくこと、または、再現できるかが、今後重要な未来の課題となるでしょう。



ホクリクサンショウウオの生体

シリーズ 動物園うらのうら

レッサーパンダの妊娠騒動

飼育展示課 小倉康武

タンタン（ ）とメロン（ ）の交尾を確認し、「9年ぶりの赤ちゃん！」と期待しながら巣箱設置



巣箱から顔を出すメロン

など準備を進めました。巣作り行動や体重増加も見られ、私は週2回の体重測定が何よりも楽しみでした。出産予定日が近くなった頃、メロンの警戒心が急に増して、巣箱にこもり始めました。「もうすぐ生まれる！」そう思って、出勤したら1番にメロンを見に行き、赤ちゃんの声がしないかチェック

する日々がしばらく続きました。しかし、いつまでたっても声は聞こえず、心配することの方が多くなりました。「死産か」不安でしかたありません。ある日、思い切って産箱からメロンを追い出し、中を見てみましたが赤ちゃんはいません。その日を境に産箱にこもることも減り、産む気配がなくなりました。

メロンは偽妊娠だったのです。これは、メロンが初産だったからかもしれません。期待した分、とてもとても残念でした。次こそは、本当に妊娠することを願っています。

シリーズ 動物園うらのうら

オオカンガルーの人工哺育

動物病院 大井 毅

今年の8月8日にオオカンガルーのラホミの袋から4本の足（2匹分の足）が出ていました。どうやら、ラホエの子どもが袋から落ち、ラホミの袋にもぐりこんだようです。元の母親の袋に戻そうとしましたが、結局うまくいかず人工哺育で育てることになりました。1日4回だったミルクも現在は1回になり、約1.2キロだった体重も2倍以上になりました。離乳食としてバナナ、リンゴ、煮たサツマイモを与えています。草や固形飼料も食べるようになりました。おぼつかなか

ったジャンプでの移動も一人前になってきましたが、目の前にお母さんの袋がわりのトートバッグを広げるとすぐに頭からもぐりこみます。天気の良い日は、このトートバッグに入ってお散歩です。

お母さんの袋から落ちてても他人の袋にむりやり入り込むくらいの根性があるやつですが、実は女の子で、毛のふかふかなぬいぐるみのようです。現在、オーストラリアの平原には、同じ位の大きさのオオカンガルー赤ちゃんが2頭いますが、春には3頭で飼育場を跳

ね回る姿が見られでしょう。



大きくなった赤ちゃん

動物園スクラップブック

9/4	野々市保育士サークルにレクチャー	10/20	能美市寺井特別支援学級にレクチャー
9/5	動物園友の会例会	10/20	宝達志水町宝達小学校にレクチャー
9/6	瑞樹サロンにレクチャー	10/21	白山市美川幼稚園にレクチャー
9/11	小松市梯町公民館子ども会に講師派遣	10/21	能登町小木・松浪保育園にレクチャー
9/12	サンデースクール「川の生き物観察会」	10/21~23	第58回動物園技術者研究会に参加 (神戸市王子動物園)
9/18	裏側探検ツアー 「チンパンジーの丘、オランウータンの丘」開催	10/22	白山市北陽小学校にレクチャー
9/18	完熟堆肥の無料配布	10/22	金沢市米泉小学校にレクチャー
9/19	デカばあちゃんお別れの会	10/24	動物映画会「動物の不思議」
9/19	秋のナイト・ズー 実施	10/25	加賀市動橋保育園にレクチャー
9/19~20	デカめもりある展開催	10/26	白山市松任中学校に講師派遣
9/24	小松市矢田野小学校にレクチャー	10/27	酪農組合白山支部にレクチャー
9/25	小松市梯町公民館に講師派遣	10/27	能美市辰口中央小学校総合学習
9/26	どうぶつ映画会「南アメリカの動物」	10/27~28	トキ飼育繁殖検討会に参加(佐渡市)
9/29	能美市宮竹小学校にレクチャー	10/28	能美市辰口中央小学校総合学習
9/30	白山市鶴来第二保育所にレクチャー	10/28	福井市清水台保育園にレクチャー
9月中	野鳥20羽 哺乳類5頭 保護	10/29	県政バス(一般募集)が裏側ツアー
10/1	津幡町太白台小学校にレクチャー	10/29	能美市福岡小学校にレクチャー
10/2	川北町川北小学校親子レクレーション受入	10/29	白山市石川小学校に講師派遣
10/3	動物園フォトコンテスト表彰式	10/31	加賀親子劇場が裏側ツアー
10/3~31	動物園フォトコンテスト作品展示会	10月中	野鳥36羽 哺乳類4頭 保護
10/6	福井県細呂木小学校にレクチャー	11/1	能美市辰口中央小学校総合学習
10/7	白山市東明小学校にレクチャー	11/1	能美市辰口中学校へ講師派遣
10/9	能美市湯野小学校親子ふれあい活動にレクチャー	11/2	福井市和田小学校に講師派遣
10/9、10	秋のナイトー・ズー 実施	11/3	動物体重当てクイズ 開催
10/10	サンデースクール「石ころ動物園」	11/10~11	種保存会議に参加(東京都)
10/9~11	秋のふれあいまつり実施 大型休憩所ふれあいコーナー、完熟堆肥無料配布、ピオトープ観察会、屋台村 など	11/14	サンデースクール「里山ウオッチング」
10/13~14	第20回ゾウ会議に参加(京都市動物園)	11/15~17	第36回海獣技術者研修会に参加(島根県)
10/13	白山市石川保育所にレクチャー	11/17	羽咋郡志賀町土田公民館に講師派遣
10/14	野々市町御経塚保育園にレクチャー	11/20	裏側探検ツアー 「アフリカの草原、ゾウの丘」開催
10/15	福井市玉の江保育園にレクチャー	11/20	石川県庁にて臨時ふれあいコーナー開設
10/16	裏側探検ツアー「動物病院・調理棟」開催	11/21	自然クラブ「ズーキッズ」 「自然の動物と私たち 裏側編」開催
10/17	自然クラブ「ズーキッズ」 「自然の不思議体験 すみか編」開催	11/22	キリン出産
10/18	能美市辰口中央小学校総合学習	11/26	動物脱出防止訓練・消防訓練実施
10/18	金沢市戸板小学校にレクチャー	11/28	動物映画会「草原のシマウマ」
10/20	加賀市山中小学校にレクチャー	11月中	野鳥17羽 哺乳類1頭 保護

動物園行事のお知らせ

サンデースクール

毎月第2日曜日、午後1時～2時
毎回テーマを決めて、動物について楽しく勉強します。小学生以上、定員30名。参加費は無料ですが、入園料が必要です。

今後の予定

1月9日、2月13日、3月13日

どうぶつ映画会

毎月第4日曜日、
午前11時と午後1時半
動物学習センターのレクチャーホールで上映します。一回25分から50分。おもしろい動物の生態を映像で紹介します。

今後の予定

1月23日、2月27日、3月27日

裏側探検ツアー

毎月第3土曜日、
午前11時から30分程度。
普段見学できない動物舎の管理ゾーンを探検します。定員20名。要予約。探検できる動物舎は毎回違います。

今後の予定

1月15日、2月19日、3月19日

飼育係の「お食事ガイド」

毎日時間を決めて、飼育職員が動物に給餌しながら解説します。動物園入り口で時間をお知らせしているほか、園内放送でもご案内いたしますので、ぜひご覧ください。ただし、天候や動物のコンディションによって中止になる場合もありますので、ご了承ください。

「バードストリート工事のお知らせ」

バードストリートのフクロウ舎周辺は、ライチョウ飼育舎建設工事のため、見学通路が狭くなっており、またフクロウ舎の見学もできなくなっています。来園の皆さんにはたいへんご迷惑をおかけしていますが、3月末の完成まで、ご理解とご協力よろしくお願いたします。

編集後記

トキの到着に始まり、ヒョウとイヌワシ新パドックの完成、記録的な猛暑。デカばあちゃんの突然の死。スパールバルライチョウの導入とライチョウ会議、生物多様性COP10関連行事、キリンの出産など、平成22年は本当にいろいろなことがありました。

今振り返ると、うれしいことや悲しいこと、忙しかったことなど、たくさんのが頭に浮かんできます。平成23年はどんな年になるでしょうか。地球温暖化や異常気象、森林伐採など動物を取り巻く環境は悪くなる一方のような気がしますが、どうか動物たちにとってよい年であるようにと祈りたいと思います。

(竹田)

お便りお待ちしております。

皆さんからのお便りをお待ちしています。
いしかわ動物園での思い出、質問、ご意見などや、動物の写真、イラストなども大歓迎です。

(宛先)

いしかわ動物園・企画教育係
アニマルあいズ編集部

次号は4月発刊予定



アニマルあいづ

2010年 冬 Vol.11-4

編集・発行 いしかわ動物園

〒923-1222

石川県能美市徳山町600

TEL 0761-51-8500 / FAX 0761-51-8504

e-mail :info@ishikawazoo.jp

ホームページ <http://www.ishikawazoo.jp>

動物取扱業者の種別：展示 第206E001号



いしかわ動物園携帯サイト